

川柳アート

選者：川柳アート
八木健（月刊川柳総合誌）
「川柳マガジン」三元選者

88

特選

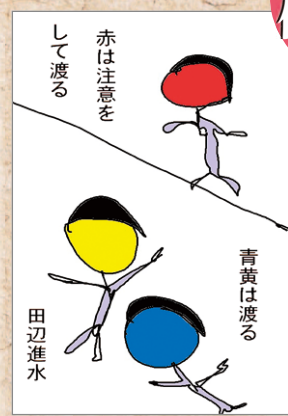
佳作



輸送機に見る彼の国のこり押し図
「南瓜が採れ過ぎたから食え」と持ってくる奴がいる。今度の奴は煮ても焼いても食えん奴だなあ。
山内もここ（伊予市）



平等に照らす太陽だから好き
平等に照らすのは悪い奴を見つづけるためなんだ。だから良からぬこと企むんじゃないぞ。
川又 暁子（今治市）



青黄は渡る赤は注意をして渡る
青信号でも躊躇して渡らない奴は好かんが、赤信号でも無理して渡る奴は借りた金返すの忘れたふりをするような嫌な奴さ。
田辺 進水（松山市）



この眉が美女と醜女の境界線
眉ひと筋で美女にも醜女にもなれる。これを「ひと筋眉ではゆかぬ」と言うんだ。「一筋縄ではゆかん女はそれを心得ているぞ。」
富岡 沙代（松山市）



出てゆけと行ってやったらいいだけよ
引きとめるから出て行くといいだけよ
投稿はがりに二句あったから、一對の句なんだろうね。だけど基次さんはおそらく引き留めるタイプ。ふふふ……
武井 基次（松前町）



読まないけれど枕元には本を置く
昔は読んでるうちに眠ってしまい、ナイトキャップなどと言ってたが、最近是一年中国日本を持ちこんで、中は新品、表紙が傷んでしまった。
大西 知子（松山市）



殺生はやめてゴキブリ掃き捨てる
私たちは虫を粗末に扱ってきた。虫も活用次第で効用がある。ゴキブリは解熱利尿作用がある。それに脚をとつたら柿のタネに。
岩間 一虫（東温市）



評論家に二合でなれる縄のれん
原因は、政治が良くない。政治じゃなくて政治家だろうが。その片棒担ぐマスコミも悪いね。選挙の投票に行かんお前も悪い。
大政 利雄（松前町）

ひろば SEP.

孫の存在

ゆ芽（宇和島市・65歳）

孫は勉強と部活に励む高校1年生。ある日の午後、わが家に来て来た。夫が沖から戻るのを待ち受け、いざ出漁。しかし、潮変わりもあり、芳しくない釣果だったようだ。それでも孫は「楽しい。じいちゃんの船に乗れてうれしい」と夫をねぎらう。「ばあちゃんの料理もおいしい」と舌鼓を打つ。「幸せ！」コールを連呼する孫に、思わずニンマリする私たち。春頃から体調がすぐれず、落ち込むことの多かった私は、孫に会うたび元気をもらっている。

25年ぶりの再会

SK2（松山市・36歳）

勤務中、年配の買い物客に声をかけられ、店内を案内した。どうも、小学時代の理科の先生にソックリだが、なかなか勇気が出ず聞けないまま、作業場に戻ろうとした。が、25年ぶりの再会！話せるチャンスは2度と来ないかも!!慌てて戻り「〇〇先生ではないですか?」と尋ねると、ご本人だった。単なる確認の、1分に満たないほどの会話だったが、ニコッと返してもらった笑顔に心が温まった。

お便り募集

○川柳
テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限ります。採用された作品には選者・八木健さんが切り絵やCGを使った「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントします。
○ひろば
エッセーなどを募集しています。テーマは自由、200字以内。誌面の都合上、原稿を割愛、修正する場合があります。ご了承ください。

ください。採用の方には、1,000円分の図書カードをお送りします。
川柳とひろばのあて先は下記の通りです。住所、氏名、電話番号、性別、年齢をお書きください（ペンネームも可。必ず氏名を記入してください）。
※ご応募いただいた個人情報、適切に取り扱います。
〒790-8511 松山市大手町1丁目12-1
アクリート編集室 通信係
Eメール accrete@enp-sc.jp

た。いつまでも、お元気でいてください。
来年は両手に花!?
野ボタン（伊予市・69歳）
昨年は良くできたので、今年もグリーンカーテンを作った。朝顔と夕顔で花を楽しみ、ゴーヤで食卓の一品を……と3種類の苗を植えた。苗の購入時期が少し遅れて、植え付けが遅くなったのが失敗だったのか、志半ばで終わった。植物は正直だと思つた。来年少は、よく茂つた葉影ごしの風でエコな夏を過ごしたい。残念!